

§ 準備のいないワークショップ §

4 素朴なコロンブス

1. 素朴なコロンブスとは

コロンブスは、アメリカ大陸を発見したと言われます。それは偉大な発見でした。私たちもコロンブスほどではありませんが、毎日何か発見をしています。そしてその発見は私たちの心を豊かにするものです。そんな小さな発見を語ってみませんか。

2. 目 標

身近にある小さな発見（五感で感じたこと）について

- (1) 話し手は、相手に分かりやすく話すことを学ぶ。
- (2) 聞き手は共感のための、傾聴、相づち技法を学ぶ。
- (3) 身近にある小さな「うれしさ」、「おもしろさ」、「おいしさ」が私たちに幸せにしてくれることに気づく。

3. 構 成

- (1) リーダーは、コロンブスについて聴衆に問い、その答えから身近な「発見」の話へと導き、3つの目標を伝える。
- (2) リーダーがホワイトボードに **おいしい、うれしい、おもしろい** 発見と書き、例を話す。
- (3) ペアを作り、Aさん、Bさんを定める。
- (4) Aが3つの発見の中から一つ選び、2分間Bに語る。Bは聞く。
- (5) Bが3つの発見の中から一つ選び、2分間Aに語る。Aは聞く。
- (6) 全体でのシェアリングとして、一人ずつ、パートナーから聞いた話を感想も交え2分で発表する。
- (7) このWSで体験した感想を話し合う。

4. 効 果

- (1) 身近にある小さな発見を語ることで自己開示する。
- (2) 聞き手に分かりやすく説明するためのスピーチの練習となる。
- (3) 話の種を見つける方法を知ることによってスピーチの材料探しに役立つ。
- (4) 相手に共感したり、聞いていることを示したりすることで他者を理解し、傾聴技法を学ぶ。
- (5) 話し手と聞き手の両方の立場を経験することで、話すこと、聞くことの喜びを得る。
- (6) 相手の発見を聞き、また、自分の発見に対する感想を聞くことで、人の感じ方の多様性を知ることができる。
- (7) 身近にあった良い体験を、発見として聞くことで、より幸せに感じられる。

アジェンダ<例>41～43分

時間 (分)	ワークショップ前の準備 (ストップウォッチを用意する。)
5	ワークショップの目標とルールの説明
6～8	ペアに分かれて、話し合う。
20	パートナーの話を全体で話す。<例>8人×2分=16～20分
5	ワークショップの目標について確認する。
5	参加者にワークショップの効果について聞く。

参考文献

斉木ゆかり(1999)「素朴なコロンブス」「エンカウンターで学級が変わる ショートエクササイズ集」図書出版

<日本リージョン 第35期 教育・資料研究委員会>

作 者：斉木ゆかり 山口久美子 烏谷まゆみ 浦濱恭子